

課題番号 : F-13-AT-0124
 利用形態 : 機器利用
 利用課題名 (日本語) : ポリマー光導波路実装基板の加工技術に関する検討
 Program Title (English) : Study of fabrication techniques for a polymer optical waveguide board
 利用者名 (日本語) : 江頭 慶幸, 浮田 茂也
 Username (English) : Yoshiyuki Egashira, Shigenari Ukita
 所属名 (日本語) : 技術研究組合光電子融合基盤技術研究所
 Affiliation (English) : Photonics Electronics Technology Research Association

1. 概要 (Summary)

最近の情報通信分野において、基幹通信分野は光通信による高速化が進んでいる。同じく、サーバーやルータなど情報処理機器も高速化が進んでいるが従来の電気配線では高速化にともなう誘電損失やノイズの影響によって、その限界が見え始めてきている。これに対し、光による信号伝送は電気に対して高速化は勿論のこと、低消費電力化に著しく効果があることから、今後サーバーやルータ或いはパソコンの内部まで光を使った信号伝送技術のニーズが高まると予想される。報告者は、ポリマー光導波路基板の作製とその結合構造部の作製を目的として、NPF の設備を利用して作製を行った。

2. 実験 (Experimental)

利用した装置

・スピコーター・マスクアライメント露光装置・ダイシングソー・短波長レーザー顕微鏡

持ち込みの Si 基板上に開発中の特殊ポリマーを、光導波路を形成する為にコーターを使用して塗布しマスクアライメント露光装置でパターンを形成している。その露光時間とパターン形成サイズの確認の為、マスクアライメント露光装置の露光時間と形成パターンサイズの関係の確認する必要がある。パターンサイズはポリマー多層で 40 μm 近く有るため確認する方法として、ダイシングソーにて切削し断面を短波長レーザー顕微鏡にて測定、確認を行った。

3. 結果と考察 (Results and Discussion)

Fig.1 の様に露光時間と線幅の変化が確認され線幅の太さによらず線幅の太り方は違いが無い事から目的の幅に作製するためのデザイン線幅を決定することができる知見を得ることが出来た。

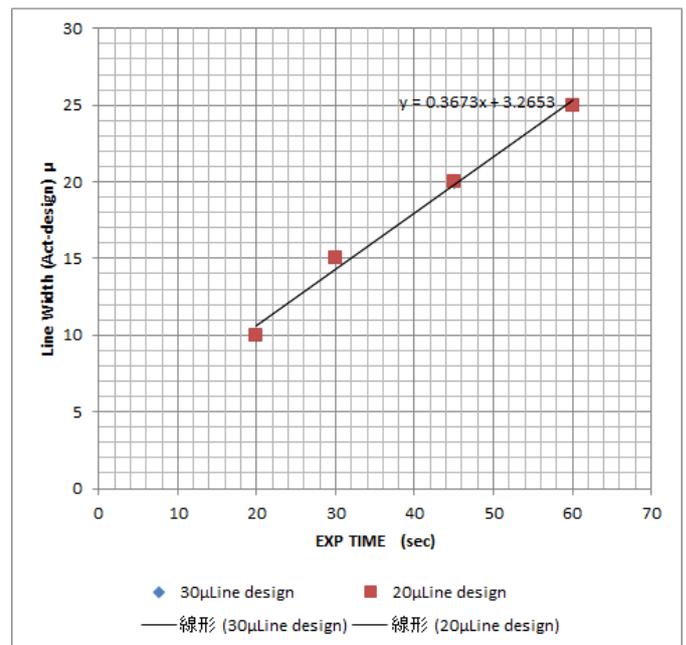


Fig.1 Coating Characteristic.

4. その他・特記事項 (Others)

・今後の課題

他の開発中のポリマー材料でも同様の手法で評価し、それぞれのサイズの太り幅の直線性の確認が必要である。再現性の確認と形状の相関性をどの様に簡単な方法でモニターするかが課題となる。

・共同研究者

森雅彦、佐々木史雄、望月博孝、天野健、渡邊一弘、佐々木美紀子

5. 論文・学会発表 (Publication/Presentation)

(1) 佐々木史雄, 天野建, 望月博孝, 浮田茂也, 江頭慶幸, 佐々木美紀子, 山本宗継, 小森和弘, 森雅彦, 第3回電子光シンポジウム(2014.2.25)

6. 関連特許 (Patent)

なし。